

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2591200049		
法人名	医療法人社団真下胃腸科医院		
事業所名	グループホームりょうせんの郷 ユニット雅・悠		
所在地	滋賀県栗東市糺5丁目15番38号		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階
訪問調査日	平成31年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月に開設以来7周年を迎える。その人らしい生活を送っていただくために、「その人を知る」事に重きを置きケアにあたってきた。スタッフも定着しそのことの大切さが理解されてきている。またご家族とのコミュニケーションを大切に、ご本人はもとより、ご家族の思いを出来る限り希望に沿うように努めている。地域に開かれた施設を目指し、年1回法人全体の納涼祭を開催し地域の方に参加いただいている。栗東市依頼を受け、法人全体で「認知症カフェ」事業に取り組んでいる。同法人である真下胃腸科医院と医療連携を行い、入居者の健康管理に努めている。また、看取り介護も行っており、開設以来5名の利用者様を看取らせていただいた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の医院に隣接して開設され、7年目になる事業所である。理念には「その人らしい生活を…」 「地域の人々とのふれあいを…」 「家庭的な生活環境を…」 「介護職の資質を高める…」 の4項目を掲げ、日々その実践に取り組んでいる。医院より月2回の訪問診療と看護師による健康管理を受けており、緊急時にも適切な対応や医療連携が整い、利用者や家族にとって安心感が大きい。職員は利用者の思いに耳を傾け、家族のように寄り添い、明るくゆったりとした中で安心して楽しく過ごせるよう支援している。地域とのつながりにおいては、地域住民や家族を招いての納涼祭の開催や、中学生の職場体験学習、マジックショーや大正琴の演奏会、傾聴などのボランティアを受け入れて交流を楽しんでいる。また希望者には、本人と家族の意向をふまえた”終の住処”として、看取り介護まで寄り添う方針の下、ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果・雅

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で4つの理念を全員で唱和し、理念の共有を行い実践に努めている。また理念を事業所の目につくところに掲示している。	地域でその人らしい生活を大切にし、事業所の役割を重視した理念を、事業所内に掲示している。会議では全員で唱和して理念の共有を図り、理解と実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。中学生の職場体験学習を受け入れている。また栗東市いきいきボランティア活動の方の受け入れを行っている。	ボランティアや中学生の体験学習の受け入れ、認知症カフェ開催に取り組んでいる。法人主催の納涼祭には、多くの住民や家族の参加を得ている。自治会には加入しているが、地域行事への参加ができていない。	地域の一員として、地域の行事に参加していくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栗東西中学校区での「認知症カフェ」事業に法人全体で取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レクリエーションの充実を図るため民生委員の方をお願いしたところ、5回シリーズにて、色々なレクリエーションを提供していただくことになり、3年を迎えている。	隔月に開催し、活動報告や利用者の状況、自己評価・外部評価の取り組みなどを報告し問題点を討議している。施設に関する取り組みでは、出席の行政担当者から、家族へのアンケート調査の提案を受けて実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月毎の運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。介護保険のサービスについて、不明な点等は尋ねている。	長寿福祉課とは常に連携を持ち、介護保険や福祉制度の疑問点を問い合わせたり、活動状況の報告をしている。市の介護相談員が毎月来所しており、利用者や職員の声を聞いてもらい、フィードバックを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事例があり、玄関は施錠している。全ご家族へ再度施錠についてのご意見をいただくべく、アンケートを実施した。3カ所のドアの内、1カ所は常時開錠している。身体拘束をしないケアの研修には、職員を参加させ、勉強会で伝達している。	職員は研修受講や所内の勉強会を通して、拘束をしない介護への理解を深めて、日々のケアに当たっている。現在、帰宅願望者が3名ほどいる都合上、事業所の3カ所の出入口のうち、職員の目が行き届く1カ所を常時開錠している。	出入口の施錠をしなくてもよいケアの取り組みを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修を受講したり、職員会議の場で学ぶ機会を設けている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方が4名おられるため、制度の内容等職員会議の場で学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が重要事項説明書に沿って説明し、その後契約内容も説明し納得いただいた上で契約となる。また質問事項等にはお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族とのコミュニケーションをとり、意見をいただくようにしている。年1回家族会と称し意見交換をする場を設けている。また年1回外部評価受審時に家族アンケートを実施され、意見をお聞きしている。	日頃、利用者と接する中で、また家族の来所時に意見や要望を聞いている。市の介護相談員からの情報も得ている。年一回の家族会は貴重な意見交換の場となっている。トイレの汚れや個人の持ち物の破損などの苦情も、その都度善処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のケアの中で管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。また事務部長との個人面談を実施し職員個々の意見を聞く場も設けている。	管理者、事務部長との個人面談をそれぞれ年一回実施し、意見を聞いている。また、会議の場やケアの中で意見や提案を受けている。年間の行事を利用者になじみやすくととの提案で、忘年会などに一部変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境について、意見が出たところは改善している。また、勤務時間について、子育て中のパート職員については、短時間勤務の希望が出たため可能とした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を全職員が見る場所へ掲示している。施設外の研修へ参加したり施設内での勉強会を行っている。法人内主催のよる研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県南部介護サービス事業者協議会に加入し、いろいろな研修に参加し交流を計っている。また法人内にグループホームがもう1カ所あるので随時意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定の段階で利用者様の情報収集に努めている。ご本人様やご家族様より希望事項や現状を詳しくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族の思いを聞いている。初回ケアプラン作成時にも説明し要望をお聞きしプランに反映させている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にしっかりと話し合い何を必要とされているか、考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗い物、掃除などを職員と入居者様が出来ることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時に情報交換を行ったり、3か月に一度ケアプランの見直しの際、利用者様の様子を書面でお伝えしている。外出等ご家族が行えることは提案し、出来る範囲で行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と交流が持てるように、面会など声掛けを行っている。 近所への買い物などの外出を積極的に 行っている。	家族の来訪が多く、隣接のデイサービスから知人が来て交流することもある。家族と買い物やドライブ、外食に出ることも多い。来訪が少ない利用者の家族には、来訪を促す連絡をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月カンファレンスを開催し、入居者同士の関係についても話し対応している。 職員が間に入り、関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望があれば必要に応じて連絡と相談は行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員皆で、利用者様毎に3か月に一度カンファレンスを行い、日々の本人の言動や、表情などの情報を記録に細かく残し、職員間で情報の共有をしている。	利用者との日常の会話や、表情、仕草などから把握したり、家族から情報を得ている。得られた情報は申し送りノートやアセスメントシートに記録して、職員間の共有を図るとともに、次回の介護プランの資料にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族の協力を得て、情報をもらっている。入居前に介護サービスを利用されていた方は前担当介護支援専門員に情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様の様子を介護記録に記入し、申し送りノート等により情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの見直し後、家族に説明と同意のサインをもらっている。	介護計画は利用者や家族の思いや意見を配慮し、全職員が関わってアセスメントやモニタリングを重ね、3か月ごとに作成している。状態変化があればその都度見直しを行い、いずれも家族に説明の上、署名捺印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行っている。勤務交代時の申し送り事項をノートに記入し、全職員が情報の共有と把握を行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて福祉用具導入の相談や購入を、他の事業所と連携して行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	三味線、ハンドベル、フラダンス、傾聴のボランティア様に來ていただいている。訪問美容室を利用したり近隣のスーパーへ希望の品物の購入するため職員が同行している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の説明をし、納得をいただいてから当法人と医療連携を結んでいる。月2回の往診をうけ、体調不良の場合は緊急往診もあり、体調管理には注意している。	利用者は納得の上、全員が当法人の医院をかかりつけ医とし、定期的に往診を受けている。受診内容は家族と共有し、緊急時や入院時は家族にも付き添って貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医院の看護師と常に連携、相談を行っている。緊急時の対応も可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時、連携医院と情報交換を行っている。入院時には施設での情報を提供し、退院時には、必ず病院での退院に向けたカンファレンスにご家族と共に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成26年度からの新規利用者様には入所契約と同時に重度化した場合における指針を説明している。それ以前に入所された方には順次説明をしていく。	重度化および終末期方針を明確にし、病院で延命治療を受けるか、あるいは当事業所で看取り介護を受けるかを決定して貰い、看取り介護を希望した場合は「看取り介護の同意書」に署名捺印を貰っている。これまでに5人を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学ぶ場を設けている。緊急対応の勉強会も行っている。緊急時のマニュアルを作成し、緊急連絡網も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。車椅子対応の利用者様が増加し、施設が2階にあるため、まずはベランダへ出て一時避難を徹底して行っている。	避難訓練および消防署への通報訓練を年2回行っているが、夜間を想定しての訓練は実施していない。連絡網や対応マニュアルは作成している。まだ自治会との協力体制は得られていない。	消防署の指導の下、夜間を想定しての訓練を実施して欲しい。また自治会や地域の協力体制が得られることを望む。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、声掛け、介護方法は尊厳のある対応をするよう周知している。職員会議においても、尊厳をもった声掛けを徹底している。個人情報事務所の施錠できるところで保管している。	職員は法人の接遇研修を受けている。利用者の尊厳を保ち、都度々々の声掛けが大切である事を認識している。また馴れ馴れしい言葉と、親しさのある言葉の違いを理解し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えにはできる範囲で対応している。買いたい物や、食べたい物は、随時一緒に買い物に行くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望に答えるように努めている。食事の時間など出来る範囲で本人の要望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や身だしなみが大切な事は会議などで随時指導している。毎月訪問美容業者が来られるので随時ヘアカット、ヘアカラーをしてもらっている。着用する衣類もご自身で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べ、会話をしながら楽しく食事が行えるようにしている。食事の準備や片付けは利用者様と一緒にしている。	平日の昼食は法人の厨房で調理した食事を提供している。平日の昼食以外は食材の配達を受け、職員が調理している。調理レクと称して、利用者と共にお好み焼きや粕汁などを作って、一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によってバランスのとれた献立を考えている。嗜好により食べられない物は代替品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを必ず実施している。介助が必要な方には介助を行っている。必要時、連携の歯科医と相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、本人に合った時間に誘導を行うなどの工夫をして清潔の保持に努めている。	一人ひとりの様子を察知し、さり気なくトイレ誘導を行っている。殆どの利用者が紙パンツとパッドを併用し、夜は厚めのパッドにしている。夜間は、居室でポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し、水分摂取量も把握している。排泄確認も実施し、排便が確認できない場合は主治医に相談のもと、軟下剤等を処方してもらい便秘にならない様注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各人週3回の入浴日を設けている。ひとり30分程度の時間を設けており、ゆっくりと入浴いただいている。	週に3日の入浴で、基本は同性介助としているが、異性介助の場合もある。入浴を嫌がる人には無理強いせず、気分の良い時に入浴して貰い、時には入浴剤を利用して楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごすことは自由に行ってもらっている。必要者には、安楽な体位で入眠できるように検討実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬している薬の最新情報をファイルしており、職員は薬品名、効能、副作用について知ることができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメント用紙を使用し、カンファレンスごとに本人についての思いや生活の情報の把握に努めている。役割活動や、個人で楽しめることも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけて様々な外出を企画し実施している。個人の買い物なども本人の意向に沿って行っている。その他に、散歩や施設の花壇の水やり行い、外出の機会を設けている。ご家族にもお願いし、外出していただいている。	近くの公園へ桜の花見や紅葉狩りに外出し、ドライブを兼ねて琵琶湖畔のコスモス畑へ出掛けしている。天気の良い日には、職員と周辺を散歩したり、時には一緒に喫茶店に出掛けしている。家族と共に外食やドライブに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族よりお預かりしたおこづかいを施設金庫で管理している。一部ご自身で財布を持参されている方もおられるが、自己管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の引き継ぎは行っている。携帯電話所持の入居者の援助も行っている。手紙のやり取りも自由に行ってもらい、援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持の為に毎日掃除を行い、明るく暖かな印象が持てるようにしている。安定した室温であるために季節感がわかり辛くなるため、室内飾りや壁面画等で工夫をしている。	居間兼食堂は広々として開放的であり、ソファも置いている。ベランダに臨む窓は大きくて日当たりが良い。対面式キッチンも広くて機能的である。壁には利用者作成の貼り絵があり、和やかさを醸している。風呂場やトイレは広くて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区切ってくつろげるスペースの確保を行っている。天気の良い日はテラスで過ごすなどの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇を置いたり、カーペットを敷いたり、馴染みの家具を持ち込んでもらっている。壁に写真を貼るなど自由に使ってもらっている。	各居室は窓からの彩光で明るい。それぞれ馴染みの家具や机など持ち込み、居心地よく配している。利用者が出来る人は、職員と一緒に部屋の掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日、食事のメニューをホワイトボードへ記入したり、日めくりカレンダーなどで日にちなどが分かるように提示している。また自室がわかるように表札を掲げる等の工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果・悠

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で4つの理念を全員で唱和し、理念の共有を行い実践に努めている。また理念を事業所の目につくところに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。中学生の職場体験学習を受け入れている。また栗東市いきいきボランティア活動の方の受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栗東西中学校区での「認知症カフェ」事業に法人全体で取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レクリエーションの充実を図るため民生委員の方をお願いしたところ、5回シリーズにて、色々なレクリエーションを提供していただくことになり、3年を迎えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月毎の運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。介護保険のサービスについて、不明な点等は尋ねている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事例があり、玄関は施錠している。全ご家族へ再度施錠についてのご意見をいただくべく、アンケートを実施した。3カ所のドアの内、1カ所は常時開錠している。身体拘束をしないケアの研修には、職員を参加させ、勉強会で伝達している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修を受講したり、職員会議の場で学ぶ機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方が4名おられるため、制度の内容等職員会議の場で学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が重要事項説明書に沿って説明し、その後契約内容も説明し納得いただいた上で契約となる。また質問事項等にはお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族とのコミュニケーションをとり、意見をいただくようにしている。年1回家族会と称し意見交換をする場を設けている。また年1回外部評価受審時に家族アンケートを実施され、意見をお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のケアの中で管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。また事務部長との個人面談を実施し職員個々の意見を聞く場も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境について、意見が出たところは改善している。また、勤務時間について、子育て中のパート職員については、短時間勤務の希望が出たため可能とした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を全職員が見る場所へ掲示している。施設外の研修へ参加ししたり施設内での勉強会を行っている。法人内主催のよる研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県南部介護サービス事業者協議会に加入し、いろいろな研修に参加し交流を計っている。また法人内にグループホームがもう1カ所あるので随時意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定の段階で利用者様の情報収集に努めている。ご本人様やご家族様より希望事項や現状を詳しくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族の思いを聞いている。初回ケアプラン作成時にも説明し要望をお聞きしプランに反映させている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にしっかりと話し合い何を必要とされているか、考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗い物、掃除などを職員と入居者様が出来ることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時に情報交換を行ったり、3か月に一度ケアプランの見直しの際、利用者様の様子を書面でお伝えしている。外出等ご家族が行えることは提案し、出来る範囲で行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と交流が持てるように、面会など声掛けを行っている。 近所への買い物などの外出を積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月カンファレンスを開催し、入居者同士の関係についても話し対応している。 職員が間に入り、関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望があれば必要に応じて連絡と相談は行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員皆で、利用者様毎に3か月に一度カンファレンスを行い、日々の本人の言動や、表情などの情報を記録に細かく残し、職員間で情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族の協力を得て、情報をもらっている。入居前に介護サービスを利用されていた方は前担当介護支援専門員に情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様の様子を介護記録に記入し、申し送りノート等により情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの見直し後、家族に説明と同意のサインをもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行っている。勤務交代時の申し送り事項をノートに記入し、全職員が情報の共有と把握を行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて福祉用具導入の相談や購入を、他の事業所と連携して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	三味線、ハンドベル、フラダンス、傾聴のボランティア様に来ていただいている。訪問美容室を利用したり近隣のスーパーへ希望の品物の購入するため職員が同行している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の説明をし、納得をいただいてから当法人と医療連携を結んでいる。月2回の往診をうけ、体調不良の場合は緊急往診もあり、体調管理には注意している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医院の看護師と常に連携、相談を行っている。緊急時の対応も可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時、連携医院と情報交換を行っている。入院時には施設での情報を提供し、退院時には、必ず病院での退院に向けたカンファレンスにご家族と共に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成26年度からの新規利用者様には入所契約と同時に重度化した場合における指針を説明している。それ以前に入所された方には順次説明をしていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学ぶ場を設けている。緊急対応の勉強会も行っている。緊急時のマニュアルを作成し、緊急連絡網も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。車椅子対応の利用者様が増加し、施設が2階にあるため、まずはベランダへ出て一時避難を徹底して行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、声掛け、介護方法は尊厳のある対応をするよう周知している。職員会議においても、尊厳をもった声掛けを徹底している。個人情報事務所の施錠できるところで保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えにはできる範囲で対応している。買いたい物や、食べたい物は、随時一緒に買い物に行くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望に答えるように努めている。食事の時間など出来る範囲で本人の要望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や身だしなみが大切な事は会議などで随時指導している。毎月訪問美容業者が来られるので随時ヘアカット、ヘアカラーをしてもらっている。着用する衣類もご自身で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べ、会話をしながら楽しく食事が行えるようにしている。食事の準備や片付けは利用者様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によってバランスのとれた献立を考えている。嗜好により食べられない物は代替品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを必ず実施している。介助が必要な方には介助を行っている。必要時、連携の歯科医と相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、本人に合った時間に誘導を行うなどの工夫をして清潔の保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し、水分摂取量も把握している。排泄確認も実施し、排便が確認できない場合は主治医に相談のもと、軟下剤等を処方してもらい便秘にならない様注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各人週3回の入浴日を設けている。ひとり30分程度の時間を設けており、ゆっくりと入浴いただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごすことは自由に行ってもらっている。必要者には、安楽な体位で入眠できるように検討実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬している薬の最新情報をファイルしており、職員は薬品名、効能、副作用について知ることができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメント用紙を使用し、カンファレンスごとに本人についての思いや生活の情報の把握に努めている。役割活動や、個人で楽しめることも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけて様々な外出を企画し実施している。個人の買い物なども本人の意向に沿って行っている。その他に、散歩や施設の花壇の水やり行い、外出の機会を設けている。ご家族にもお願いし、外出していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族よりお預かりしたおこづかいを施設金庫で管理している。一部ご自身で財布を持参されている方もおられるが、自己管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の引き継ぎは行っている。携帯電話所持の入居者の援助も行っている。手紙のやり取りも自由に行ってもらい、援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持の為に毎日掃除を行い、明るく暖かな印象が持てるようにしている。安定した室温であるために季節感がわかり辛くなるため、室内飾りや壁面画等で工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区切ってくつろげるスペースの確保を行っている。天気の良い日はテラスで過ごすなどの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇を置いたり、カーペットを敷いたり、馴染みの家具を持ち込んでもらっている。壁に写真を貼るなど自由に使ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日、食事のメニューをホワイトボードへ記入したり、日めくりカレンダーなどで日にちなどが分かるように提示している。また自室がわかるように表札を掲げる等の工夫をしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域に開かれた施設を目指し、ボランティア様の受け入れや納涼祭を開催し地域の皆様にお越しいただけるよう工夫をしておりますが、自治会の行事に参加できていない。	自治会行事へ参加したい。	自治会長を訪ね、新年度の行事をお聞きし参加させていただけるかお聞きし、まずはひとつから地域行事へ参加する。	12か月
2	35	年2回の避難訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練は現在できていない。	年2回の訓練のうち、1回は夜間を想定した訓練を実施したい。	消防署の方へ指導を仰ぎ、夜勤者2名での訓練を実施する。また、近隣の方々へ協力をお願いしたいと考える。	12か月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。